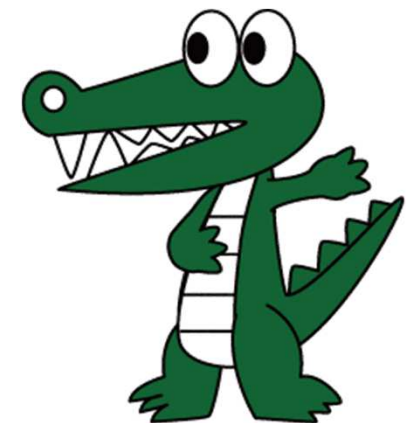




図書館ネットワークの未来を考える ワークショップについて 第3回

令和4年（2022年）11月

豊中市



本ワークショップのテーマ

- ◆ 本ワークショップでは、下記の4つのステップで図書館に関わる、「市全体の公共施設の状況」「図書館のネットワーク」「中央図書館の場所や適地」について皆さまにご議論頂く予定です。

STEP 1 【前回】

【第1回】（R4. 10. 13）→終了

＜目的＞図書館の現状と基本構想の内容、豊中市全体の公共施設の状況を理解する

STEP 2

【第2回】（R4. 10. 27）→終了

＜目的＞図書館ネットワークについて考える

STEP 3

【第3回】（R4. 11. 10）

＜目的＞中央館の適地において重視すべき要素を考える ①

STEP 4

【第4回】（R4. 11. 24）

＜目的＞中央館の適地において重視すべき要素を考える ②

第2回ワークショップの 振り返り



本日の流れ

本日のワークショップは、全体で約120分を予定しています。

ワークショップの次第は下表のとおりです。

※本日は中央館の配置を決める上でのポイントを中心にお話いただきます。

18 : 30	(5分)	開会
18 : 35	(10分)	第2回ワークショップの振り返り
18 : 45	(10分)	ワークショップのテーマ
18 : 55	(5分)	ワークショップの進め方
19 : 00	(60分)	テーマ：中央館の配置を決める上でのポイント
20 : 00	(20分)	本日のまとめ
20 : 20	(10分)	閉会・次回の予定

【前回アンケートご意見を踏まえたご対応】

※本日のご意見もアンケートにご回答ください



第2回ワークショップの振り返り【A班】

位置付け	ご意見
中央館	• 利便性の良い場所 • 幅広い年代層の方が使える（OPENしている時間や図書の内容） • 年代ごとによりそった講座イベントを入れてほしい（子ども→おはなし会、高齢者→スマホ（パッド）の使い方） • 民間企業とのコラボ（複合施設として建物の中に他の施設を併設） • サービス網の中心として有能な中央 • 保育施設があればよいな
全体 （地域館）	• 中央館、地域館を分ける意味は判らない 同等にしてはどうか • レファレンスは他市の図書館から取り寄せるだけでなく、専門図書館から取りよせも可能にしてほしい • サービス 夜間PM8:00～9:00位まで利用できる時間 • お母さんが安心できるようもっと便利にできるものを 例：自動販売機（100円コーヒー）、保育ルーム部屋
分館	• 分館というより独立館として館長を • 中央館や地域館との関係はピラミッド型ではなくネットワーク型がよい • 子ども達の利用しやすいように • 小さくてもよいので子供の徒歩圏内にあって欲しい • 子ども（幼児、小中学生）が歩いて行けるところに意味がある • 地域情報の資料（風景写真、お店、学校、おすすめの場所の資料）入れてほしい • 分館について住民の利便性を考えて立地場所を決める

第2回ワークショップの振り返り【B班】

位置付け	ご意見
中央館 豊中の歴史をつなぐ・地域のほこり	【シナジー効果】 - 中央公民館とコラボした（中央）生涯学習センターとして機能する - 中央館はレファレンスの要 課題解決のための資料収集・システムが必要 - 優秀な司書を配置する - 中央館や地域館の規模なら多職種連携して地域の課題に応えられる - グローバル化に対する洋書の扱いをどうするのか！？ - 阪大と音大のある街としての専門図書の拡充と連けい - 中央館は豊中市のシンボルとなる建物 【デジタル化でサービスを均一化できない？/ハコとして中央図書館は必要？】 - 中央館機能は必要 でも必ずしも箱としての中央館は要らない - 中央図書館は岡町図書館がせまく古くなっているので建て替えは賛成 【スペース】 - 尼崎市の中央図書館、伊丹市のことば蔵相当の広さ
地域館 ・ 分館 地域の人によりそう 地域の特色を出す 行政サービスの アクセスポイント なくなる方の身にも	- 生涯学習センターとしてコラボレーションの場とする - イベントはどんなことができるのか？役割があるのでは？分館は草の根的な教育ができる - 分館は地域に身近な場にしてほしい 親子で読める広さがほしい！ 学習室などは必要 - 地域館はいろんな親しみがある 気軽に行けるようにしきいを低くして明るく、司書さんも前に出てきて知恵をかしてくれる豊中図書館にしてほしい - 図書館はいちばん身近な気軽に来られる施設 - 分館には期待している - 千里・庄内の開発史と変遷の資料図書 - 分館はアクセスしやすい。乳児、子育て、高齢者（認知症）等幅広い層の相談窓口と話し相手。 - 中央図書館機能にアクセス出来る方法を充実させる 33分館を配する 又はまたがって16ぐらいか11ぐらいの分館を設ける
その他	- ロシア文学の蔵書を充実させる ロシア領事館は豊中市に有る - どの館にも高いレファレンス機能が必要（司書の充実） - 館の間での本棚（資料）の交換 10、20年後子どもたちがうれしい図書館

第2回ワークショップの振り返り【C班】

位置付け	中央館・地域館・分館の役割	課題・問題提起	蔵書	機能・スペース
中央館	- 情報を集約（地域館・分館から）→ 全市的に発信 - 地域館に必要なサポート - 職員の研修	- 中央館の蔵書 ①市全体必要量をカバーする？ ②図書館に来館できない方々への図書確保機能はあるのか	- 市の図書館が所蔵している専門書をまとめて所蔵する - 豊中市をテーマにした資料をそろえる（歴史、自然、企業、等々）	- 本に関する相談を受付ける 開放的な部屋 - ディスカッションできる部屋 - 広すぎない空間 - 親子で本と交われる広く自由なスペース - 資料が上げられる個室的なスペース（研究室） - すわって本が読める イスなどのスペース、机とセット、ソファ、長イスなどとりまぜて - 郷土の図書、雑誌、論文、新聞記事を集成した部屋 - 子どものための図書館 200～300席は必要
地域館	- コミュニティの核 - 市民のきめ細かいニーズの発掘 → 中央館へ	- 地域館の特色がうすれてきている - 豊中になくもないもの 地域になくもないもの ない居場所 - 図書館がなくなっていた他の役割をどうする？	- 豊中市や地域に関する文献を中心にする（歴史、文化） - 千里はYA？庄内は？？地域館のテーマ	- 小グループでワイワイ語れるスペース - 現在の9館はすべて地域館として機能している それを2に減らすのか - 地域特性にあわせたグループ活動をつくるサポートをする - 前回のバス路線問題と関連して、地域館は2館ではだめ せめてもう1館
分館	- コミュニティの核 - 市民のきめ細かいニーズの発掘 → 中央館へ	- これからの分館の汎用性の高い図書中心と現在の分館のとりそろえのちがいが不明 - 分館の図書機能は中央館がフォローするのか？	- 子供や高齢者を中心に資料をそろえる - 読みきかせの会	- 公民館分館ごとに図書室をもうける - 体に不自由があっても通える距離 - 素足で読書ができるスペース - 市民の図書館への要望をうけとめる基本的施設 - 子育て世代が通えやすくなる空間 - 今の分館はこれ以上なくすと地域の人には非常に不便になる 500㎡というのは今の各図書館のどこにもない狭さ まともな図書館といえない - 泉丘、上新田地域にも分館が必要

第2回ワークショップの振り返り【C班】

位置付け	その他
その他	- 基本構想の知名度低い - 企業、個人からテーマのある蔵書を寄贈してもらって〇〇文庫をたくさんつくる - 移動図書館は季節ごとにテーマを決めた資料を用意する - 他市の図書館行政（市民とのかかわり）からみたら15～20年おくられている - 市民の幸せだけでなく職員の幸せも - 今あるもので足りているのか検証する必要は？ 児童館、公民館 - 図書館機能に限定した問題ではない - 今ある機能をどう保障するのか - あらゆるところとつながれる強み - リクエストのたくさんある図書をたくさんそろえない 本屋でない 市民がかえない、買わない、知らない資料をそろえてほしい - 図書館の開架と閉架の利用の再構築を考える 大阪府下の図書館、大学図書館のデータのデジタル利用窓口を！ - 他との連携 - 身近なところに図書館は必要 - 中央館だけで機能を補うのは難しい - 中央館・地域館・分館の機能に、これでもれている野畑、いぶき、とくらを利用していた方々（市民）はどうなるのか？ - リクエストに柔軟に対応できるように

第2回ワークショップの振り返り【D班】

位置付け	各館	共通
中央館	【蔵書・アーカイブ】 - 蔵書数最低100万冊 - アーカイブを維持するため。多くの資料 - 専門性の高い本を求めている方が利用しやすい - あらゆるレファレンスに対応できる蔵書と司書がいる - 場所はどこでもよい。広い場所がある。 【交通利便性】 - 交通の便のよい場所に 市内どこからでも行きやすい 【豊かな空間づくり】 - 大きな公園のそばにある 1日子どもとすごせる（大人もウォーキング） - 大きい空間はゆったりできる	【サービス施設】 - 駐車場・駐輪場スペースが豊富にある - カフェスペース もちこみ（飲食OK）スペース - 居ごちのよい空間 - 赤ちゃんからお年寄まで誰もが安らげる場所 【サービスの維持】 - 学校との連携 - 分けて考えるひつようがあるのか？ - 地域館・分館のイメージに区別はなく、フラットが良い。
地域館	【連携機能】 - 分館と中央館を結ぶ 【交通利便性】 - 駅前や交通の便で利用しやすい場所にあり、学生や会社員が利用しやすい	
分館	【連携機能】 - 保育所の近くにある 保育所の子どもたちや保護者が利用しやすい - 老人ホームの近くにある 高齢者の方が利用しやすく散歩コースになる 【学校との連携】 - 学校とのむすびつきが必要 - 学校より少し大きい図書館 【徒歩圏・生活圏】 - 歩いて行ける場所にある。歩いていけるとところに司書さん - 自転車でもいける - 子どものころから歩けるところで	
その他	【施設間ネットワーク】 - 地域館・分館を支える 人的・資料面も - 中央でしっかり地域館・分館をフォローする - 中央とつながってレファレンス - レファレンスサービスができるしくみ 【予算（配分・集中）】 - 地域館は不要であり、中央館への予算集中が必要	

ワークショップのテーマ (中央館の配置)



基本構想における中央図書館の配置の考え方

- ◆ 中央館は、市内全域から比較的アクセスしやすい位置
- ◆ 庄内・千里の両地域館との配置バランスを考慮
 - 阪急電鉄宝塚線のうち、市の中心部に近い豊中駅・岡町駅・曽根駅の周辺エリア
 - 豊中市立地適正化計画の都市機能誘導区域内に優先的に立地させる

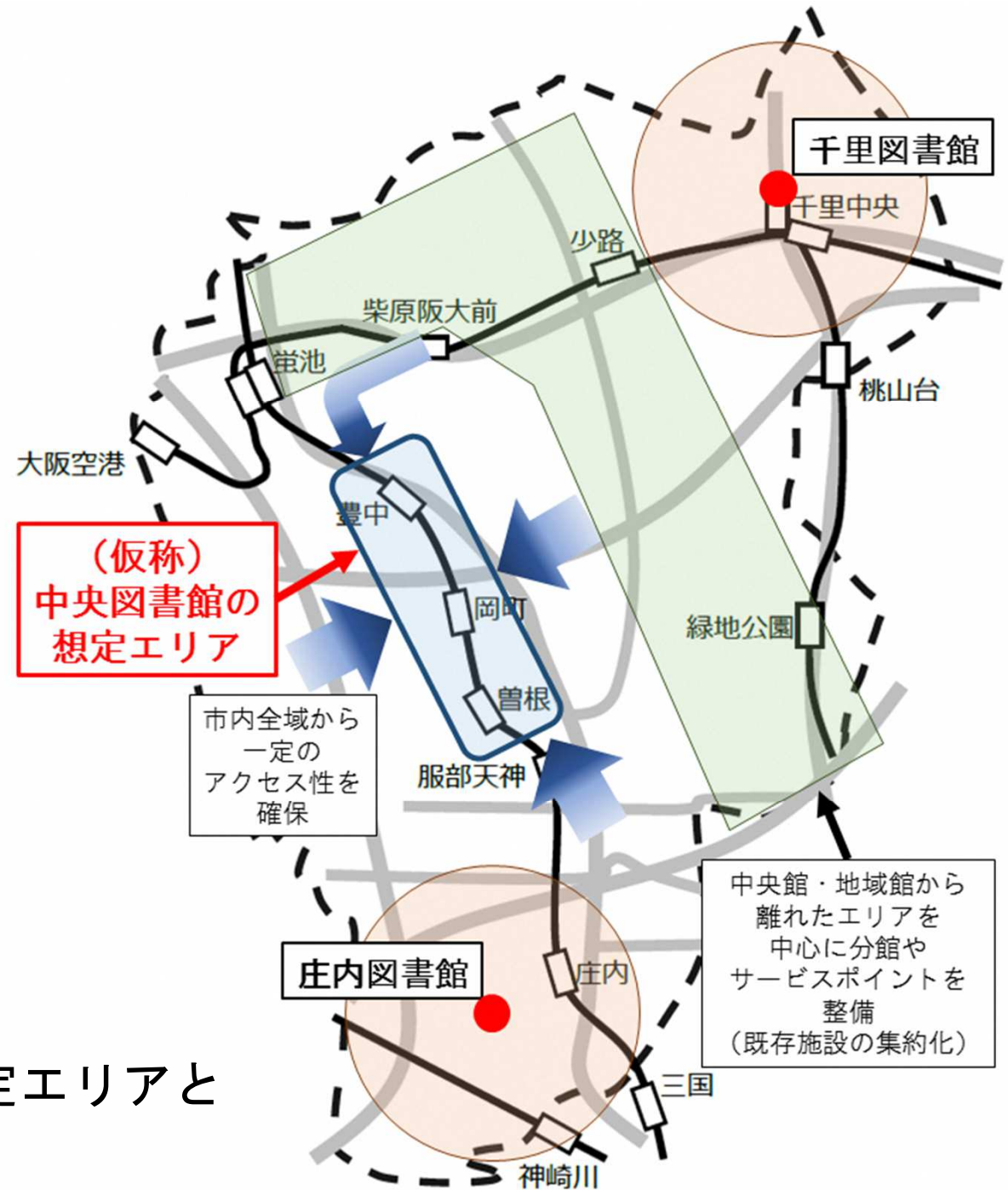


図 (仮称) 中央図書館の想定エリアと施設配置のイメージ

■ 駅近接・公共施設等との複合：明石市



■ 広い敷地で機能が充実：岐阜市



■ 公園・緑地との一体：東京都杉並区



■ 商業施設内での複合：藤枝市



本日のテーマ：

- ◆ 本日と次回は「中央館の配置」がテーマとなります。
- ◆ 本日は適地を考える「ポイント」についてご意見を頂き、次のワークショップにつなげます。

ご意見を頂きたいテーマ

中央館の配置を決める上でのポイント

ご意見の例

- ・ 中央館は〇〇〇の近くにあるとよい
- ・ 中央館は〇〇〇と離れているとよい
- ・ 中央館は〇〇〇と一緒にあるとよい
- ・ 中央館は〇〇〇の中にあるとよい

ワークショップの進め方



意見交換の方法について

意見交換を行うにあたっては、**ワークショップ**形式で実施します。

- 計画案の作成には、アンケート調査やパブリックコメントのように単方向でなく、**様々な立場の市民のみなさまが意見交換を行いながら検討することが必要**です。
- また、**多様な視点からのアプローチ**やこれまでになかった**アイデアが必要**です。

OK !



ワークショップとは

共通の課題を設定して、これを解決するために参加者がともに議論・協働作業を通じて、お互いの考え方や違いを学び、協力し合いながら解決案などをまとめていく作業です。

NG



ワークショップのルール

- ・ **人の意見を否定しない**
- ・ **自分と違う意見も尊重する**
- ・ **お互いの話をよく聞いて、積極的に意見交換**

ワークショップの進め方

司会が順番に振るので、改善策などの意見を発表してください。また、意見はポストイットに記入してください。

〇〇さんが考える
図書館に対するご意見をお聞かせください。

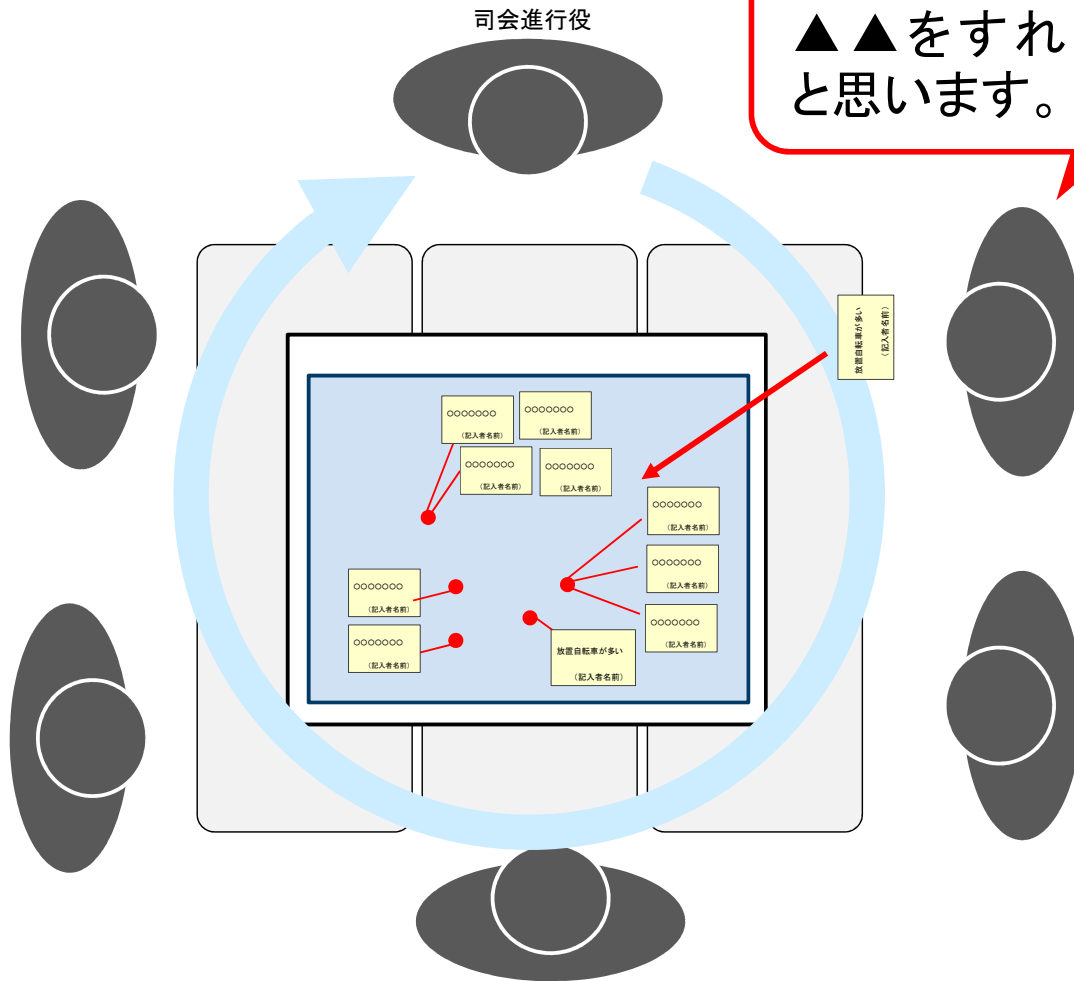
司会進行役

私は〇〇について、
▲▲をすればよい
と思います。

〇ポストイットイメージ

アクセスしやすさ
に向けた▲▲の実施

ポストイットはたくさんあるので、**1枚に1つの項目**を記入



～ご説明は以上になります～

